

二十歳の主張

中山 心結

本日は、私たちの大好きな西条市という故郷で二十歳の節目を迎えられましたこと、大変嬉しく思います。

また、このような盛大な式典を開催していただき誠にありがとうございます。

そして、市長をはじめご来賓の方々、ご臨席を賜りました方々に心よりお礼申し上げます。

今日、二十歳という大きな節目を迎え、新しい出会いや出来事への期待に胸を膨らませながらも、今まで以上に自分の行動への責任を自覚していかなければなりません。

今までの20年間を振り返るとたくさんの人に支えられ、愛されていたんだと高校を卒業してやっと気づくことができました。私は人を頼ることが苦手です。今まで誰かに手を差し伸べることはできても、助けてほしいと声をかけることにすごく恥じらいを持っていました。

一人では何もできないとわかっていたからこそ、こんなこともできないのかと周りにまで思われてガッカリされたくなかったのです。

高校卒業後、京都の専門学校に進学し夢であったウェディングプランナーを目指すも自分には向いていないと学校を辞めて逃げてしまった一年前。

両親に辞めたいとLINEを送ると文句一つも言わず電話で話を聞いてくれました。私を京都に送り出してくれた二年前の両親の気持ちを考えると、私は恩知らずだと思います。親がしてくれていたことを当たり前のように過ごし、感謝を忘れていました。

一番付き合いが長く、近くにいてくれるからこそ、大切さに気づけていなかったり、「ありがとう」や「ごめん」が言えない。親には自分が悪いと分かっているけども素直になれない、二十歳になっても変なプライドを捨てきれない自分に腹が立ちます。

こんな私でも大切に愛し続けてくれている両親にこの場を借りて感謝を伝えさせていただきます。いつもありがとう。

そして幼い頃から苦楽を共にした大好きな友人たちと生まれ育った西条市で二十歳を迎えられたこと、とても嬉しく思います。今でもたまにぶつかること

令和8年二十歳の集い

はありますが、幼い頃を思い出してはしょうもないと笑えるようになりました。どの思い出も私にとっては大切な宝物です。

大人としてまだまだ未熟ではありますが、これからは自分だけでなく、家族、友人を自分以上に大切にし、一日一日を当たり前だと思わず感謝していきます。

最後になりますが、本日このような発言の機会を頂き誠にありがとうございました。

以上を持ちまして、私の二十歳の主張とさせていただきます。